

S38通卒同期会「築地界隈プチ旅行と懇親会」を開催しました

関東六華会が9月に開催した「築地界隈の散策」に参加して、この狭い築地界隈に江戸や東京の歴史が、こんなに沢山詰まっているとは知りませんでした。外国人居留地といえば、長崎や神戸、横浜などはよく聞きますが、東京築地にも居留地があって東京の西洋文化の発祥地であったとは・・・史跡が数多く残っていました。(苦工関東六華会HP参照願います)

そこで今年の同期会は、皆さんでお勉強ということで、築地界隈のプチ旅行と懇親会を(11月20日)開催しました。

毎年趣向を変えて今年で4回目、仕事都合により蟹谷さんは不参加でしたが、今回は苦小牧から室橋正昭さんが参加してくれて7名の同期会でした。

もちろんメインは築地市場でしたが、仲卸の競り、スーパーや小売店の買付などのプロ達の活動は、朝5時～9時で既に終わっているのに、場内の雰囲気と魚がし商店街を見学して来ました。まだ10時、お昼にはまだ早いのに寿司や海鮮丼などのお店には長蛇の列、何だこりゃ！メニューもお高いし、でもこれだけ人気とは・・・海外からのお客さんに感謝、感謝です。我々は、場外市場のこじんまりしたお店で“近大まぐろ丼”を戴きましたが、ネタ相応のお値段でした。



神田信雄 室橋正昭 後藤睦女 掛田雅夫
櫻井武春 中山 勝

築地市場は、来年11月に豊洲に移転する予定ですが、場外市場はそのまま残るそうなので更なる人気の名所になって欲しいと思います。

午後のコースは先ず築地本願寺、明暦3年の「振袖大火」と呼ばれる歴史的な大火で、それまで浅草近くにあった本願寺が焼失、幕府の指導でまだ八丁堀の海上であったこの地？を代替え地として用意されたそうです。そこで佃島の門徒(森一族)が中心となり本堂再建のために海を埋め立てて土地を築いたこと

から「築地」の地名になったとのこと。

築地本願寺内に「森孫右衛門供養塔」がありましたが、江戸初期に徳川家康が摂津国から森一族を呼び寄せて佃島に住まわせ、この地一体の漁業権を与えて幕府に魚を納めさせたそうです。残った魚を日本橋で売り出したのが魚河岸（市場）の始まりで、本願寺再建や魚市場の歴史を作った来たすごい人でした。（家康を支えた海賊であったとも）

その昔、佃島の隣にもう一つ砂洲（石川島）があり、寛政2年（1790）長谷川平蔵（火附盗賊改役）が老中松平定信に建議して、江戸府内の無宿、無頼、乞食などを收容する人足寄場を設け、人足寄場責任者も兼務しました。收容者には、大工、左官、建具、鍛冶、塗物、米搗、油絞りなど、女子には洗濯、裁縫、雑巾作り、機織りなどに従事させ、作業には賃金を支払い、1/3は強制的に積立させて出所時の資金として渡しました。また人足の教化にも力を注ぎ、治安対策と授産更生という社会政策を兼ねるものでありました。当時は天変地異続きで飢餓による窮民が盗賊に転落しないように計らったものであり、これで平蔵は歴史上に名を残すことになったとのこと。（鬼平犯科帳の「鬼平」その人です）人足達の更生を目的としたその当時の画期的な処遇制度は、その後の警察機構でもモデルとして活かされているそうです。

聖路加タワービル46階から隣の佃島や石川島（人足寄場跡）、そして今は延々と続く埋立地とタワービル群を観て歴史の移り変わりを勉強しました。

築地散策後、ご一行は浜松町まで移動、そこで大神田さんと合流して、付近の個室居酒屋で第二ラウンド、元気で飲めることに感謝して「カンパイ」、今日の歩行数は1万2千歩、心地良い疲れにビールは実に美味い。

各々、今の暮らし振りを紹介して始まった同期会も、すぐ昔話にランチして中々次の人の紹介に移らず、今回も途中で終了、3時間を経過してまた来年の再会を約束して解散となりました。

室橋さんから、関東は羨ましいほど皆さんが仲良く楽しんでいることに感心しました。飛び入り参加でしたが、心底楽しめました、ありがとう。

【記 櫻井】

